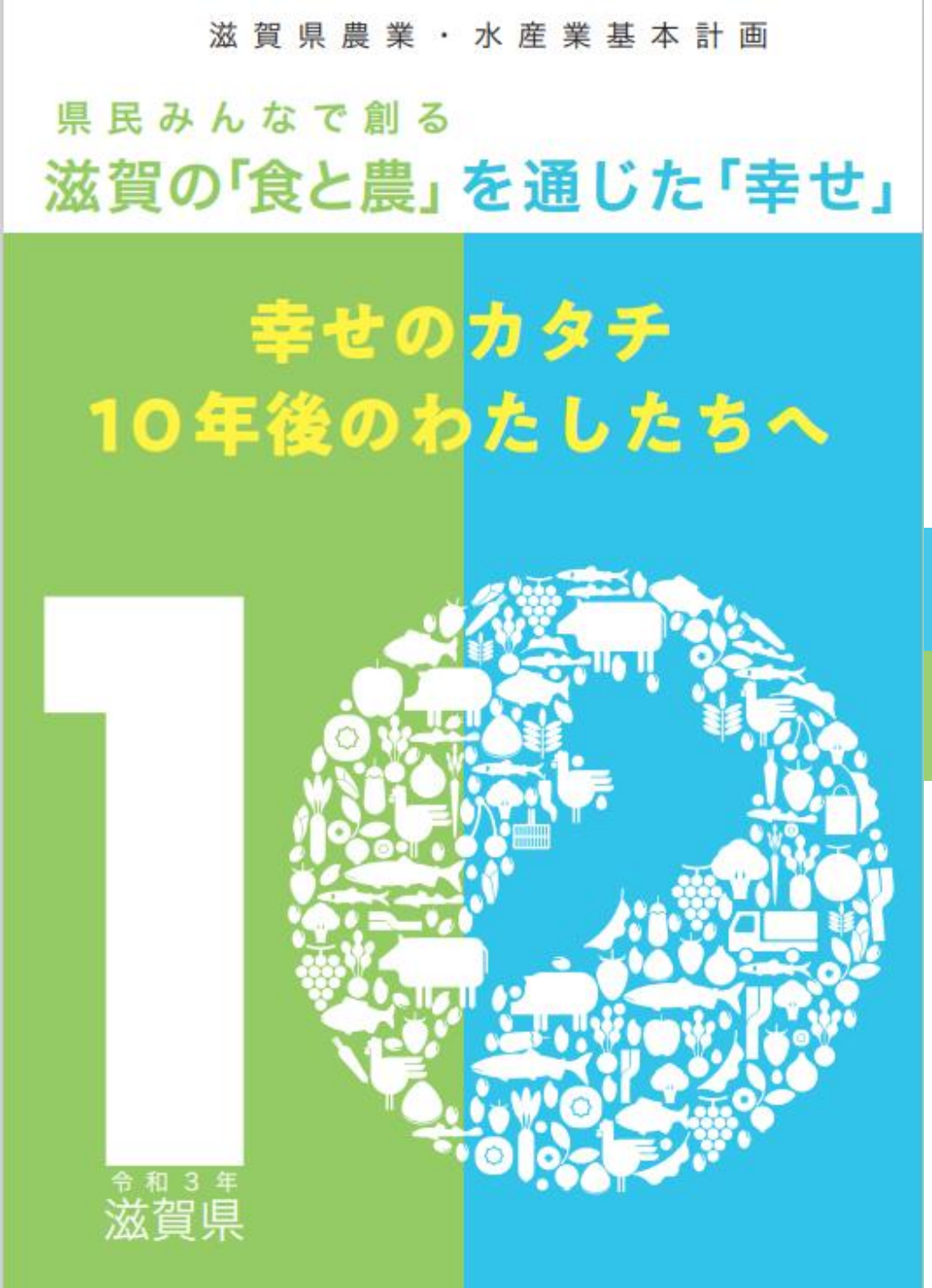
資料2



滋賀県農業・水産業基本計画
（計画期間：令和3年～令和7年）

中間総括評価
～計画策定から3年間の歩み～

滋賀県農政水産部農政課

共通視点「人」　農業・水産業と関わる「人のすそ野」を拡大する

【人・1】新規就農者・新規漁業就業者等を確保する

No	成果指標	単位	現状値（R元年度）	年次目標（上段）・実績（下段）			目標値（R7年度）
				R3	R4	R5	
1	新規就農者数	人	累計 404 （H28～）	115	115 （累計230）	115 （累計345）	575 （R3～7の累計）
				108	90 （累計198）	87 （累計285）	
2	農大オープンキャンパスや出前講座等に参加する高校生・大学生の人数	人	289	400	400	400	400
				430	622	624	
3	農業委員に占める女性の割合	%	13.2	16.0	17.0	28.0	30
				16.0	15.7	15.8	
4	新規漁業就業者数	人	累計9 （H28～）	累計2	累計4	累計6	10 （R3～7の累計）
				累計4 （R3～）	累計4 （R3～）	累計9 （R3～）	

総括

○持続可能な本県農畜水産業の確立に向けて、新たに農業・水産業に従事する者を増やすための施策を実施した結果、令和5年度時点において3つの指標（No.1、2、4）で目標の80％以上を達成することができた。

○一方、近年の資材高騰、農水産物の価格低迷などの理由により新規参入への障壁が高まっていることや最低賃金の上昇、他産業との人材の獲得競争から担い手における雇用が困難な状況になりつつある。

○今後も、就農・就業前から就農・就業後の定着にいたるまでの一貫した支援や担い手への経営発展・経営継承の支援を行い、農業・水産業に従事する者を確保するように取り組む。

共通視点「人」　農業・水産業と関わる「人のすそ野」を拡大する

【人・2】滋賀の農業・水産業のファンを拡大する

No	成果指標	単位	現状値（R元年度）	年次目標（上段）・実績（下段）			目標値（R7年度）
				R3	R4	R5	
2	農大オープンキャンパスや出前講座等に参加する高校生・大学生の人数 【再掲】	人	289	400	400	400	400
				430	622	624	
5	学校給食での湖魚の年間使用回数	回	7.2	7.7	8.2	8.7	10
				8.8	8.3	7.5	
6	滋賀の食材を発信するSNSサイトのフォロワー数	人	累計 3,993	累計 7,000	累計 7,500	累計 8,000	累計 10,000
				累計 6,742	累計 6,923	累計 7,424	
28	棚田ボランティアの年間参加延べ人数【再掲】	人	199	240	320	390	490
				154	342	368	
7	琵琶湖の水産物を食べた人の割合	%	73	75	77	79	85
				75	77	74	

総括

○全ての世代に対する県産農畜水産物の魅力発信や農業・水産業の交流・体験によってファンを増やすための施策を実施した結果、令和5年度時点において全指標で目標の80％以上を達成することができた。

○今後も、ターゲットに応じて魅力ある情報発信や交流・体験となるように工夫した施策を実施し、さらなるファンを拡大するように取り組む。

【人・3】県産農畜水産物を積極的に取り扱う食品関連事業者を増やす

No	成果指標	単位	現状値（R元年度）	年次目標（上段）・実績（下段）			目標値（R7年度）
				R3	R4	R5	
8	「おいしが　うれしが」キャンペーン登録事業者数（生産者を除く）	事業者	累計 982	累計 1,050 累計 1,069	累計 1,100 累計 1,101	累計 1,150 1,157	累計 1,250
9	琵琶湖八珍マイスター登録件数	店舗	累計 235	累計 256 累計 245	累計 267 累計 260	累計 278 累計 282	累計 300

総括

○県産農畜水産物の魅力を知り、積極的に取り扱う食品関連事業者を増やす施策を実施した結果、令和5年度時点において全指標で目標を上回ることができた。

○今後も、生産者と流通関係事業者とのマッチング機会の提供、各種イベントへの参加を募る等により県産農畜水産物を積極的に取り扱う事業者を拡大するように取り組む。

【人・4】農業・農作業の持つ多面的機能を活かした共生社会をつくる

No	成果指標	単位	現状値（R元年度）	年次目標（上段）・実績（下段）			目標値（R7年度）
				R3	R4	R5	
10	しがの農×福ネットワーク会員数	者	累計 22	累計 60 累計 59	累計 70 累計 62	累計 80 72	累計 100
11	農業と福祉の連携による新たな取組件数	件	累計 20	累計 60 累計 67	累計 70 累計 76	累計 80 累計 89	累計 100

総括

○農業・農作業の持つ多面的機能を活かした共生社会を目指して施策を推進してきた結果、令和5年度時点において全指標で目標の80％以上を達成することができた。

○今後も、農業分野では障害のある人の特性や農福連携の取組への更なる理解促進、福祉分野では農の多面的機能についての更なる周知などに取り組み、ネットワーク会員数の増加および農業と福祉の連携による新たな取組を促す。

視点「経済」　経済活動としての農業・水産業の競争力を高める

【経済・1】農業・水産業がより魅力ある職業になる

No	成果指標	単位	現状値（R元年度）	年次目標（上段）・実績（下段） R3	R4	R5	目標値（R7年度）
1	新規就農者数 【再掲】	人	累計 404 （H28～）	115	115 （累計230）	115 （累計345）	575 （R3～7の累計）
				108	90 （累計198）	87 （累計285）	
12	新規就農者の3年後の定着率（直近3年平均）	%	79 （H29～R1）	80 （R1～3）	80 （R2～4）	81 （R3～5）	83 （R5～7）
				83 （R1～3）	82 （R2～4）	76 （R3～5）	
3	農業委員に占める女性の割合 【再掲】	%	13.2	16.0	17.0	28	30
				16.0	15.7	15.8	
27	農地集積を目標としたほ場整備（面工事）に新たに着手する面積 【再掲】	ha	累計 192	累計 193	累計 294	累計 516	累計 516
				累計 193	累計 270	累計 445	
13	国際水準GAPの認証取得数	件	累計 21	累計 28	累計 31	累計 34	累計 40
				累計 29	累計 34	累計 38	
4	新規漁業就業者数 【再掲】	人	累計9 （H28～）	累計2	累計4	累計6	10 （R3～7の累計）
				累計4 （R3～）	累計4 （R3～）	累計9 （R3～）	

総括

○農業・水産業をより魅力ある職業とするために「人材の育成」「経営力の向上」「産地の強化」に係る施策を実施した結果、令和5年度時点において3つの指標（No.1、13、4）で目標の80％以上を達成することができた。

○今後も、人材の育成や経営の多角化、経営農地の集積・集約化や漁業組織の充実・強化等、経営力の向上に取り組む農業者・漁業者を支援していく。

視点「経済」　経済活動としての農業・水産業の競争力を高める

【経済・2】需要の変化への確かな対応と新たな需要の開拓や販路拡大に向け、農地・農業技術等をフル活用する

No	成果指標	単位	現状値（R元年度）	年次目標（上段）・実績（下段）			目標値（R7年度）
				R3	R4	R5	
14	園芸特産品目の産出額（野菜・果樹・花き・茶）	億円	133	157（R2） 129（R2）	159（R3） 128（R3）	161（R4） 142（R4）	165（R6）
15	全国の主食用米需要量に占める近江米のシェア（直近3年平均）	%	2.10（H28～30）	2.15 2.11	2.16 2.14	2.17 2.13	2.19（R4～6）
16	新たな需要を切り拓くとともに、気候変動に適応する水稲新品種の育成数	品種	0	－ －	1 1	－ －	1
17	麦の単収（4麦）	kg/10a	332	360 338	360 374	360 358	360
18	大豆の単収	kg/10a	117	160 133	160 153	160 136	200
19	食味ランキングでの「特A」取得品種数（コシヒカリ、みずかがみ）	品種	2	2 1	2 0	2 1	2

総括

○需要の変化への対応や新たな需要の開拓・販路拡大に向けて、新品種の開発や技術改善の普及推進による農産物の安定した生産量の確保を図ってきた結果、コロナ禍による需要低迷などの影響はあったものの、令和5年度時点において2つの指標（No.16、17）で目標の80％以上を達成することができた。

○今後も、関係機関と連携し、気候変動等における安定生産や需要の開拓等に向けた取組をすすめる。

【経済・3】近江牛をはじめとした畜産物を持続可能な形で安定生産する

No	成果指標	単位	現状値（R元年度）	年次目標（上段）・実績（下段）			目標値（R7年度）
				R3	R4	R5	
20	和牛子牛の生産頭数	頭	1,501	1,640	1,695	1,780	1,960
				1,542	1,615	1,558（速報値）	
21	家畜ふん堆肥の耕種農家の年間利用量	千トン	79	87	89	102	106
				87	100	集計中	

総括

○近江牛をはじめとした畜産物の持続可能な形での安定生産に向けた施策を実施し、コロナ禍や飼料価格高騰などの社会情勢によって大きな影響を受けたものの、キャトル・ステーションを核とした生産基盤拡大の取り組みや、家畜ふん堆肥の利用拡大に向けた支援などを進め、令和4、5年度時点において1つの指標（No.21）で目標の80％以上を達成することができた。

○今後も、社会情勢の変化に対応しながら本県の畜産業が持続可能な形で安定生産できるよう、キャトルステーションを活用した生産基盤の強化や家畜ふん堆肥の利用拡大に取り組む。

【経済・4】儲かる漁業を実現し、琵琶湖漁業を継続する

No	成果指標	単位	現状値（R元年度）	年次目標（上段）・実績（下段）		
				R3	R4	R5
22	琵琶湖の漁獲量（外来魚除く）	トン	811	900	900	900
				759（R2）	670（R3）	701（R4）

総括

○儲かる漁業の実現と琵琶湖漁業の継続に向け、漁業者による資源管理の取組や外来魚駆除、漁業後継者の確保や湖魚の流通促進など供給量を増やす取組を着実に進めてきたが、令和5年度時点においては目標の達成には至っていない。

○今後も、引き続きこれらの取組の継続が必要であるが、特に、人工河川を活用したアユ資源の安定化対策、ホンモロコの需要喚起などにいっそう力を入れて取り組む。

視点「経済」　経済活動としての農業・水産業の競争力を高める

【経済・5】近江米、近江牛、近江の野菜、近江の茶、湖魚などの「滋賀の幸」のブランド力を高め、消費を拡大する

No	成果指標	単位	現状値（R元年度）	年次目標（上段）・実績（下段）			目標値（R7年度）
				R3	R4	R5	
23	「おいしが　うれしが」キャンペーン登録店舗数（首都圏）	店舗	累計 107	累計 115 累計 116	累計 120 累計 120	累計 125 累計 125	累計 135
24	オーガニック農業（水稲）取組面積	ha	133	240 269	300 283	315 291	345
25	近江牛の飼養頭数	頭	14,411	15,250 15,316	15,500 15,971	15,750 17,004	16,300
9	琵琶湖八珍マイスター登録件数 【再掲】	店舗	累計 235	累計 256 累計 245	累計 267 累計 260	累計 278 累計 282	累計 300

総括

○「滋賀の幸」のブランド力を高めるために、「オーガニック農業」の拡大に向けた県オリジナル新品種「きらみずき」の作付け推進、キャトルステーションを核とした「近江牛の飼養頭数の拡大」、さらに、消費喚起を促すための県産農畜水産物を積極的に取り扱う食品関連事業者を増やす施策を実施した結果、令和5年度時点において全指標で目標の80％以上を達成することができた。

○今後、「滋賀の幸」のブランド力をさらに高めるため、県オリジナル品種「きらみずき」や「近江牛」等の生産振興と併せて消費拡大にかかる施策に一体的に取り組む。

視点「社会」　豊かな資源を持つ農山漁村を次世代に引き継ぐ

【社会・1】農業水利施設や農地等の農業生産における基礎的な資源を次世代に引き継ぐ

No	成果指標	単位	現状値（R元年度）	年次目標（上段）・実績（下段）			目標値（R7年度）
				R3	R4	R5	
26	農業水利施設の保全更新により用水の安定供給を確保する農地面積	ha	累計 18,520	累計 26,349 累計 26,349	累計 29,818 累計 28,354	累計 32,244 累計 29,040	累計 36,697
27	農地集積を目標としたほ場整備（面工事）に新たに着手する面積	ha	累計 192	累計 193 累計 193	累計 294 累計 270	累計 516 累計 445	累計 516

総括

○農業生産における基礎的な資源を次世代に引き継ぐための基盤整備事業の推進に取り組んできた。各地区の実情により事業の着手や対策の年度に前後が生じており、令和5年度時点においては全指標で目標の80％以上の達成には至っていない。

○今後も、地元との丁寧な意見交換・調整を行い、農業生産における基礎的な資源を次世代に引き継げるように取り組む。

視点「社会」　豊かな資源を持つ農山漁村を次世代に引き継ぐ

【社会・2】集落の力と多様な主体との連携・協働により農山漁村の持つ多面的価値を次世代に引き継ぐ

No	成果指標	単位	現状値（R元年度）	年次目標（上段）・実績（下段）			目標値（R7年度）
				R3	R4	R5	
28	棚田ボランティアの年間参加延べ人数	人	199	240 154	320 342	390 368	490
29	世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策での広域化組織による取組面積割合	%	44	44 44	45 45	46 45	60
30	農山村の活性化に向けた多様な主体との協働活動実施地区数	地区	累計 8	累計 17 累計 16	累計 21 累計 19	累計 25 24	累計 33
31	主な野生獣による農作物被害金額	百万円	111	100以下 42	100以下 45	100以下 44	100以下
32	ふなずし講習会参加者数	人	686	730 750	760 918	790 820	850

総括

○農山漁村の持つ多面的価値を次世代に引き継ぐために、集落の力と多様な主体との連携・協働を推進する施策を実施した結果、令和5年度時点において4つの指標（No.28、30、31、32）で目標の80％以上を達成することができた。

○今後も、若い世代の参画をはじめ企業や大学等の多様な主体との連携により、農山漁村の持つ多面的価値を次世代に継承する施策に取り組む。

視点「環境」　琵琶湖を中心とする環境を守り、リスクに対応する

【環境・1】農業の営みと琵琶湖を中心とする環境の保全を両立する

No	成果指標	単位	現状値（R元年度）	年次目標（上段）・実績（下段）			目標値（R7年度）
				R3	R4	R5	
33	環境こだわり米の作付面積割合	%	44	44	45.5	47	50
				44	45	46	
34	水稲栽培におけるプラスチックを利用しない緩効性肥料の施用面積	ha	800	1,200	1,400	1,600	2,000
				1,200	1,703	1,220	
21	家畜ふん堆肥の耕種農家の年間利用量【再掲】	千トン	79	87	89	102	106
				87	100	集計中	
35	循環かんがい施設の排水集水農地面積および水管理施設の更新整備を実施した受益農地面積	ha	累計 1,770	累計 2,240	累計 2,240	累計 2,980	累計 2,980
				累計 1,770	累計 2,130	累計 2,130	
31	主な野生獣による農作物被害金額 【再掲】	百万円	111	100以下	100以下	100以下	100以下
				42	45	44	

総括

○農業の営みと琵琶湖を中心とする環境の保全を両立に向け、環境こだわり農業の推進や琵琶湖・周辺環境への負荷削減技術の導入等にかかる支援を行った結果、令和5年度時点において1つの指標（No.31）で目標の80％以上を達成することができた。

○今後は、県オリジナル品種「きらみずき」のオーガニック栽培等による環境こだわり農業のさらなる推進や関係機関との連携による琵琶湖・周辺環境への負荷削減技術の導入等を進め、目標値の達成に努める。

視点「環境」　琵琶湖を中心とする環境を守り、リスクに対応する

【環境・2】琵琶湖を中心とする環境の保全再生を進め、健全な循環のもと水産資源を回復させる

No	成果指標	単位	現状値（R元年度）	年次目標（上段）・実績（下段）			目標値（R7年度）
				R3	R4	R5	
36	冬季ニゴロブナ当歳魚資源尾数	万尾	308	650	700	700	700
				317	416	672	
37	外来魚生息量	トン	432（H30年度末）	397（R3末）	364（R4末）	339（R5末）	300（R7年度末）
				407	370	調査中	

総括

○外来魚の積極的な駆除の他、ニゴロブナの産卵繁殖場の保全や効果的な種苗放流、資源管理型漁業等に取り組んだ結果、令和4、5年度時点において全指標で目標の80％以上を達成することができた。

○今後は、さらに外来魚駆除の効率化や漁場生産力回復に向けた研究を進め、健全な循環のもと水産資源の回復に努める。

【環境・3】気候変動による自然災害等のリスクに対応する

No	成果指標	単位	現状値（R元年度）	年次目標（上段）・実績（下段） R3	R4	R5	目標値（R7年度）
38	滋賀県産米（うるち玄米）の1等米比率	%	55.7（全国平均73.0）	全国平均（83.1）以上	全国平均（78.6）以上	全国平均（61.3）以上	全国平均以上
				78.7	64.3	51.5	
16	新たな需要を切り拓くとともに、気候変動に適応する水稲新品種の育成数 【再掲】	品種	0	―	1	―	1
				―	1	―	
39	特定家畜伝染病の発生件数	件	発生なし	発生なし	発生なし	発生なし	発生なし
				1	2	発生なし	
40	9月生まれのアユ仔魚の最低必要数	億尾	49.2	27	27	27	27
				301.1	73.3	38.9	
41	洪水調節機能強化に向けた取組を実施する農業用ダム数	ダム	0	4	4	4	4（4を維持）
				4	4	4	
42	防災重点ため池に係る劣化・地震・豪雨評価の実施割合	%	23	55	75	80	90
				59	76	88	

総括

○気候変動による自然災害等のリスクに対応しうる農畜水産物の生産技術対策、農業用ダム・ため池等の防災減災対策、さらには家畜伝染病等への対策の徹底行った結果、令和5年度時点において全指標で目標の80％以上を達成することができた。

○夏季の異常高温へに適応に向けては、水稲では高温耐性を有する「みずかがみ」「きらみずき」の作付推進等を図り、家畜伝染病の発生予防対策として家畜の飼養者への飼養衛生管理基準遵守の徹底を指導する等、気候変動に対応しうる農畜水産業の経営を営むことができるように施策に取り組む。